

IR誘致に伴う、ギャンブル依存症対策について

井上委員提出資料

- エリア（府域、夢洲、カジノ等）や目的（一次予防等）を明確化し、メリハリのある対策、支援を行う
- ギャンブル依存症対策の推進には府内の関係機関が連携し、納付金・入場料収入を有効に活用しながら、相談・治療・支援・研究などで総合的かつシームレスな取組を構築する
- ICT（情報通信技術）を活用し夢洲・IR・カジノへの来訪者から行動情報等を収集することでカジノ関連問題行動の早期発見と早期対応を行うとともに、この情報を研究活動に還元することでギャンブル依存症対策の更なる開発を行う

カジノによる依存症者の増加を防止 （夢洲エリア）

- ICT・AI等をフル活用し、夢洲訪問者およびカジノ利用者の行動情報を収集し、依存症者特有の行動パターンを検討する
- 夢洲訪問者全体とカジノ利用者の行動研究等から依存症に至る過程を探る



行政によるギャンブル等依存症対策（府内全域）

- 教育の振興
- ギャンブル等依存症の予防等に資する事業の実施
- 相談支援（本人・家族）等
- 法的側面への支援
- 民間団体の活動に対する支援
- 医療提供体制の整備
- 連携協力体制の整備
- 社会復帰の支援
- 人材の確保
- 調査研究等の推進



IR事業者が講じる措置（想定） （カジノエリア）

- 最先端の認証・排除プログラム（マイナンバー、顔認証、生体認証等の複合利用）による入場確認・遊戯規制など
- 遊戯を全て仮想チップ化し個人認証することで、行動や取引履歴を収集し、依存症者及びその予備群等を早期に発見し、強制遊戯遮断などで対応する



大阪・関西の学術基盤とICT, AIなど科学技術の融合による世界最先端のギャンブル依存症対策を確立